

角 場 年 表 [出典準拠] (<>内は古地図類)

西暦	元号	角場	組地	備考	内外情勢
1584	天正12		二十人町	鉄砲の者20人が組織される。足軽組の始めとされる。「的場」あり	1584能登末森合戦
1616	元和2	大豆田角場		持筒方足軽	1651小立野で火薬製造
1630	寛永7		(高岡に置く)	異風(武士)組20人が初めて召し出される(国事昌披問答) ※1	1658土清水で火薬製造
1663	寛文3	桜畠稽古所		家中の諸士鉄砲稽古所。20間×30間(1間は約1.82m)	
		川上角場	角場川岸町	諸士のち足軽の稽古所となる。土川除(堤防)の内側	
		観音山稽古所		〃。静明寺の対岸	
1667	〃7	桜畠角場		<寛文7年金沢図>	
1668	〃8	笠舞角場		割場足軽 ※2。延宝金沢図に30間×31間。「角場」と呼ばれる町を形成	
1673	延宝1	桜畠角場		<延宝金沢図>	
1674	〃2	石坂角場		<〃>持筒足軽の中から習熟した者を選抜して大組足軽を編成	1674大組頭に3人命ず
1676	〃4	石坂角場	泉村、大衆免	50人組3組を編成。うち2組は泉村、1組は大衆免村(浅野、森山に隣接)に	1676城下に角場設置
1680	〃8		大豆田新町	享保町絵図(1716-35)に南東端に角場、隣接して「御異風角場」と記載	
1686	貞享3		鉄砲町	池田町。御先手組鉄砲足軽	
1689	元禄2	増泉角場		異風裁許二人の願いにより普請 ※3	
1690	〃3	浅野角場		増泉とともに上申。1811年(文化8)の金沢町名絵図に記載	
1828	文政11	川上角場		<金沢十九枚御絵図のうち第6>割場支配の角場	1825外国船打ち払い令
		大豆田角場		<〃 第14>御異風小頭支配の角場	1851鈴見鑄造場建設へ
		石坂角場		<〃 第16>大組支配の角場	1853黒船来航
1854-55	安政1-2	野町角場		<金沢城下図> 泉町先1カ所	1854杜猶館設置
		石坂角場		〃 野町5丁目先に「場所」と記載	
		大豆田角場		〃 犀川右岸に2カ所	
		浅野角場		〃 1カ所	
		森山角場		〃 2カ所(足軽組地あり)	1862西洋兵器採用へ
1868	藩政期末	野町角場		<城下図『石川県の歴史』1970版(藩末地図を明治末期の地図で修正)>	1865軍制改革を諮問
		石坂角場		〃	
		大豆田角場		〃	
		浅野角場		〃	
		森山角場		〃	
		笠舞角場		〃	
1871	明治4		割場町	戸籍編成の際、石坂角場に編入	1871廃藩置県
	年代不明		堀川角場町	足軽組地の跡(寛永の頃から揚場として栄えるも角場としての説明はない)	

※1異風とは鉄砲の修練を専らとする平士のこと。その名称は鉄砲の型式の呼び名からきている

※2割場足軽は諸所の警衛・飛脚・荷物率領に当たった。直臣は人持組頭、人持組、平士、足軽に大別される

※3異風裁許は「異風頭」。増泉について越登賀三州志は「大豆田角場と唱ふれども本名は増泉なり」と書く(越登賀三州志、加能郷土辞彙、金澤古蹟志、温知叢誌、平凡社「石川県の地名」などの記事から作製した)